

- 5: ⑦、⑧でキャリブレーションをとり、SWRが1.0に近いことを確認します。
 [バンド内で周波数を大きく移動した場合、SWR値が変化しますが、SWR1.5以内ならば実用上問題なく使用できます。SWR値が1.5を越えた場合は再度2:の操作でSWR値を下げてください。]

「測定部の操作」

SWRの測定

- ⑦・⑧ツマミをPULL・CALに引出し、ボリュームを最少から時計方向に回してゆき、②SWRメーターの指針をCAL点で止め(この操作をキャリブレーションをとる、といいます。)その後、⑦・⑧ツマミをPUSH・SWRに押込みます。
- このとき②SWRメーターの指針は下方向にさがって止まります。この時のSWR指示が正しいSWR値です。

送信出力の測定

外部電源を使用したとき

- ⑥をAUTOにするとオートパワーレンジ動作になります。
- ①にランプが点灯し、20WのLEDが点灯します。送信出力が20Wを越えると自動的に200Wレンジに切り替わり、200WのLEDが点灯します。このとき20WのLEDは消えません。
- ⑥をMANUにすると①のメーターは200Wの固定レンジとして動作します。メーターの照明、LEDはすべて消えます。

外部電源を使用しないとき

- ⑥AUTOで20W固定レンジ
- ⑥MANUで200W固定レンジとして動作します。

⑨チューナースイッチをTUNER・PASS (チューナー・パス)にすると、チューナーが切り離され、SWR計単独で使用することができます。

「ちょっと知っていると便利なこと」

- ローパス、バンドパスフィルターなどを使用するときは、送信機と本機の間挿入するのが効果的です。
- チューナーでSWRを1.5以下に下げきれないようなときは、バンドスイッチを上下どちらかにずらすとうまく調整がとれる場合があります。
 (例: 24MHzで調整したいとすると21か28MHzにずらす)

【使用上の注意事項】

本機を使用するときは次の事項に注意して下さい。

- !! 定格最大入力(200W)を越える送信電力は絶対に加えないで下さい。
- !! チューナーで調整する時には、はじめは小さい出力で調整をとりながら徐々に出力を上げてゆくようにしてください。
- 十分に調整できていないままに大きな出力を加えると、SWRメーターやチューナー部を焼損する危険性があります。
- !! 送信状態のままにチューナー、アンテナ、バンド、入力などの各スイッチを切り替えないでください。
- !! 高感度なメーターを使用していますので、強い衝撃を与えないようにしてください。
- !! 上蓋横の通風穴をふさがないでください。
- 本機はアマチュア無線技士等の無線従事者が、その資格により責任をもって使用する機器です。また改良等の為、予告なく仕様を変更することがあります。

KURANISHI INSTRUMENTS CO.,LTD.

1-10-24 NAKAMEGURO MEGURO-KU, TOKYO 153 TOKYO(03)3793-3311

取扱説明書

アンテナチューナー

NT-616

保証書

型名 Model.NT-616
 販売年月日 年 月 日 様
 お名前
 ご住所

〒 番

販売店名印

※販売年月日・販売店印なき物は無効!!



株式会社 クラニシ

本社 東京都目黒区中目黒1-10-24 共栄ビル 電話03(3793)3311 153